

294-82.11

AU 3102 49306

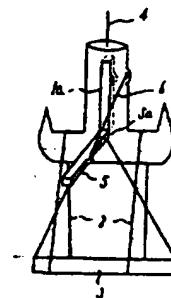
JP 405162969 A  
JUN 1993

(54) CRANE

(11) 5-162969 (A) (43) 29.6.1993 (19) JP  
(21) Appl. No. 3-350984 (22) 10.12.1991  
(71) MITSUBISHI ELECTRIC CORP (72) HIDETO KUSANO  
(51) Int. Cl. B66C1/34, B66C1/12, B66C13/06

PURPOSE: To shift an article safely by using a crane.

CONSTITUTION: A sling 5 which can be accommodated into the handle of a crane is installed and a sling support 6 for supporting the part between the sling 5 and the handle is installed. Accordingly, an article can be shifted safely by using the crane.



THIS PAGE BLANK (USPTO)

特開平5-162969

(43)公開日 平成5年(1993)6月29日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup> 識別記号 一 庁内整理番号  
 B 66 C 1/34 A 8922-3F  
 1/12 D 8922-3F  
 13/06 E 7309-3F

類似群: 3506  
 離れた群: 3507  
 本件は、特許法第2条第3項第1号に規定する外國の特許を元として、その権利が日本に輸入され、又は日本において販売されることを目的とする場合に、その権利を主張するための請求である。

(21)出願番号 特願平3-350984

(22)出願日 平成3年(1991)12月10日  
 本件は、特許法第2条第3項第1号に規定する外國の特許を元として、その権利が日本に輸入され、又は日本において販売されることを目的とする場合に、その権利を主張するための請求である。  
 本件は、特許法第2条第3項第1号に規定する外國の特許を元として、その権利が日本に輸入され、又は日本において販売されることを目的とする場合に、その権利を主張するための請求である。  
 本件は、特許法第2条第3項第1号に規定する外國の特許を元として、その権利が日本に輸入され、又は日本において販売されることを目的とする場合に、その権利を主張するための請求である。  
 本件は、特許法第2条第3項第1号に規定する外國の特許を元として、その権利が日本に輸入され、又は日本において販売されることを目的とする場合に、その権利を主張するための請求である。

(54)【発明の名称】 クレーン

(57)【要約】 本発明は、安全に物体を移動するためのクレーンである。  
 【目的】 クレーンを用いて物体を移動する際に安全に移動できることを目的とする。

【構成】 クレーンの取っ手1内に収納可能なつり具5を取り付けると共に、このつり具5と取っ手1間とを支えるためのつり具支え6を設けたものである。

【効果】 クレーンを用いて安全に物体の移動ができる。

F I 技術表示箇所  
 本件は、特許法第2条第3項第1号に規定する外國の特許を元として、その権利が日本に輸入され、又は日本において販売されることを目的とする場合に、その権利を主張するための請求である。

本件は、特許法第2条第3項第1号に規定する外國の特許を元として、その権利が日本に輸入され、又は日本において販売されることを目的とする場合に、その権利を主張するための請求である。  
 本件は、特許法第2条第3項第1号に規定する外國の特許を元として、その権利が日本に輸入され、又は日本において販売されることを目的とする場合に、その権利を主張するための請求である。  
 本件は、特許法第2条第3項第1号に規定する外國の特許を元として、その権利が日本に輸入され、又は日本において販売されることを目的とする場合に、その権利を主張するための請求である。

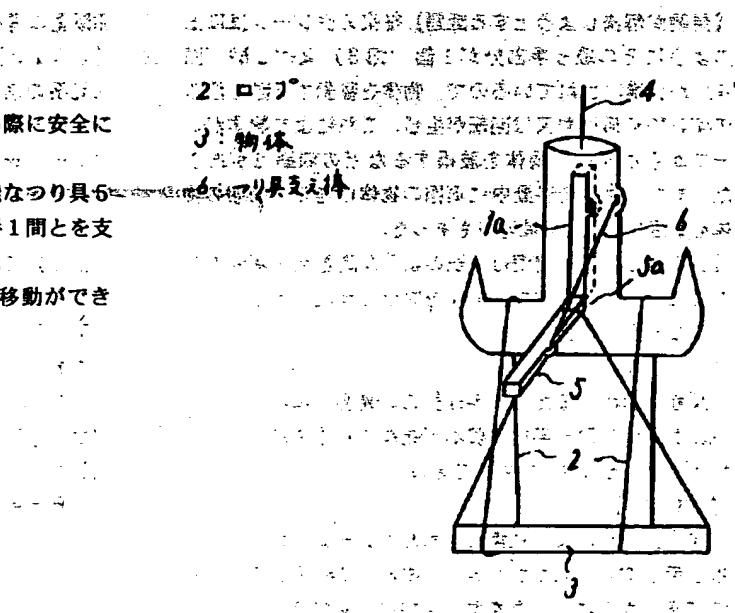
(71)出願人 000006013

三菱電機株式会社  
 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号

(72)発明者 草野 秀人

長崎市丸尾町4番4号 三菱電機コントローラソフトウエア株式会社長崎事業所内

(74)代理人 弁理士 村上 博志(外人名)  
 本件は、特許法第2条第3項第1号に規定する外國の特許を元として、その権利が日本に輸入され、又は日本において販売されることを目的とする場合に、その権利を主張するための請求である。  
 本件は、特許法第2条第3項第1号に規定する外國の特許を元として、その権利が日本に輸入され、又は日本において販売されることを目的とする場合に、その権利を主張するための請求である。  
 本件は、特許法第2条第3項第1号に規定する外國の特許を元として、その権利が日本に輸入され、又は日本において販売されることを目的とする場合に、その権利を主張するための請求である。



BEST AVAILABLE COPY

1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 取っ手と被吊下げ物体をロープで結び、取っ手に取り付けた鎖を巻き上げることにより物体を移動させるクレーンにおいて、上記取っ手内に収納可能で、使用時該取っ手より突き出せるようにした別のつり具を増設したことを特徴とするクレーン。

【請求項2】 取っ手の縦溝内に下端部が枢着されたつり具を収納し、飛び出し時、このつり具を取っ手に連結された支持棒で支えるようにしたことを特徴とする請求項1記載のクレーン。

【請求項3】 取っ手の縦溝内に下端部が枢着されたつり具を収納し、飛び出し時、このつり具を取っ手に連結されたロープで支えるようにしたことを特徴とする請求項1記載のクレーン。

【請求項4】 ロープの先に巻取り用ぜんまいを取り付けたことを特徴とする請求項3記載のクレーン。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、クレーンのアタッチメントに関するものである。

【0002】

【従来の技術】図3、図4は従来のクレーンを示す側面図である。図において、1は取っ手、2はロープ、3は被吊下げ物体、4は鎖である。

【0003】次に動作について説明する。ロープ2を用いて取っ手1と被吊下げ物体3とを結び、クレーン本体から鎖4を巻き上げて物体3を吊り上げ、移動させる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】従来のクレーンは以上のようにその取っ手部分が1個(図3)又は2個(図4)から構成されているので、物体を移動する際に図の矢印の如く横揺れ又は回転が生じ、これにより物体がロープからはずれ、物体を破損するなどの問題点があった。また、物体を移動中に周囲の物体に当り、周囲の物体を破損するなどの問題点もあった。

【0005】この発明は上記のような問題点を解消するためになされたもので、物体を安全に移動できるようにすることを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】この発明に係るクレーンは、クレーン取っ手内に収納可能なつり具を取り付けて取っ手部分を増やしたものである。

【0007】

【作用】上記のように構成されたクレーンにおいては、取っ手と増設されたつり具とが相まって物体を安全に固定でき、さらにつり具を取り付けて取っ手内に収納できるので、つり具の保管場所を取らない。

【0008】

【実施例】

2

実施例1. 以下、この発明の一実施例を図について説明する。図1はつり具(アタッチメント部)を取っ手内に収納した状態を示すクレーンの側面図、図2は取っ手内からつり具を取り出した状態を示すクレーンの側面図である。図において、従来技術と同一部分については同一符号により示すものとする。5はつり具支え棒6で取っ手1に支持されたつり具で、その下端5aが取っ手1に枢着されており、不要時は図1のように取っ手1の溝1a内に収納され、使用時は図2のように90度回転して水平方向に飛び出すようになされている。

【0009】穴に動作について説明する。上記の様に構成されたクレーンアタッチメントにおいては、つり具5が収納できる為場所をとらず、また、つり具が増える為物体3を吊り上げて移動する場合、安全に移動できる。

【0010】実施例2. なお上記実施例1では、取っ手部につり具を収納しておき、つり具を取り出しつり具支え棒で支える飛出し型の場合について説明したが、支え棒の代わりにロープを用いてよい。またロープの先にぜんまいを巻くことにより、楽につり具を出す様にしてよい。

【0011】実施例3. 更に上記実施例1では、つり具を取っ手部内に収納する場合について、説明したが、取っ手部に穴を開けてつり具部を差し込み型にしておき、つり具を取っ手部内に差し込む様なアタッチメントにしても同様な効果を奏する。

【0012】実施例4. 更に上記実施例1では、取っ手部内につり具1個を収納する場合について説明したが、収納つり具を2個にして取っ手から2個のつり具が出る開閉型の構造にしても同様の効果を奏する。

【0013】

【発明の効果】以上のようにこの発明によれば、クレーンの取っ手部分に収納可能なつり具を取り付けたので、クレーンを用いて物体を移動させる際、安全に物体の移動ができる効果がある。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施例によるクレーンを示す側面図である。

【図2】この発明の一実施例によるクレーンを示す側面図である。

【図3】従来のクレーンを示す側面図である。

【図4】従来のクレーンを示す側面図である。

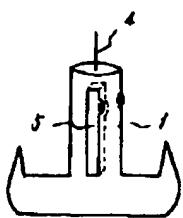
## 【符号の説明】

- 1 取っ手
- 2 ロープ
- 3 物体
- 4 鎖
- 5 つり具
- 6 つり具支え棒

BEST AVAILABLE COPY

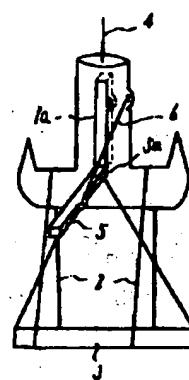
【図1】

1: 鉛  
4: 線  
5: フリホ

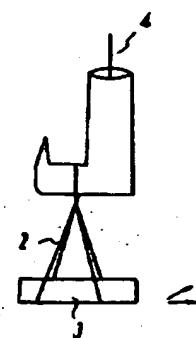


【図2】

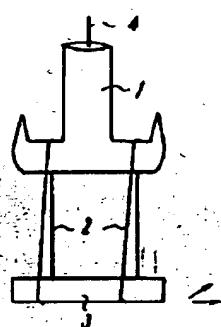
2: □-T<sup>2</sup>  
3: 物体  
4: フリホ主体



【図3】



【図4】



BEST AVAILABLE COPIE

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**